

〔出席委員〕 河村壮一郎、西坂千代子、井中貴史、荒瀧美由紀、松田恵、黒川泰、笠見猛、  
明德一志、名越和範、小谷次雄、山下千之、笠田直樹、牧田悟（敬称略）

委嘱状机上配布	
1 開会	
司会 会長	開会の宣言 開会挨拶
全員順番に	自己紹介
司会	資料確認・会の時間の予定確認
2 報告	
事務局	協議事項（1）（2）について資料に沿って説明
3 協議	
会長	今概略を聞いたが、重点施策で昨年度と変わったところはどこか。
事務局	変わっているところは、特にはない。少し事業の変更があって名前を変えているところがある。取り組みの方向性は特に変わっていない。
会長	それでは、中身に入っていきたい。平成29年度学校教育基本方針と基本施策から始める。お気づきの点があったら、出してほしい。いかがですか。
委員	重点施策の道徳教育・人権教育の充実というところがあるので、重点施策の下から3行目の言語活動、道徳教育、体験活動と書いてあるが、人権教育ということを入れて頂きたい。
会長	事務局の方よろしいでしょうか。
事務局	はい。
会長	その他はどうか。ないようであれば、幼児教育1、2とあげてあるが、何か御意見はありませんか。
委員	保護者の育成に関しては、ここの中には入ってこないのか。
事務局	保護者の方は入れていません。
委員	保護者の意識を変えていく必要があると思っている。小学校に向けての準備段階であったり、成長著しいこの時期に保護者と子どもとの密接な愛着関係を築いたり、学習の基礎になるものを、園だけとか学校だけでできない状況にある。もうちょっと一言入れて頂けたらと思う。
会長	就学前の2番には研修が入ってる。
事務局	保護者の方については、文言としては入れていないが、今言われたことは大切なことだと思うので、取り組みの中には入れていただきたい。家庭教育ということで今大事だと言われたが、小P連、中P連とも連携しているので、保育所も含めた取り組みを今後考えさせていただきたい。
教育長	それについては、計画の中に入れてるか。まだ調整中か。一昨年から小学校中学校のPTAと連携しながら教育講演会を開いている。今後の日程調整はどうなっているか。
事務局	これからである。
会長	保育園も保護者会があるか。
教育長	保護者の会がある。保育園の保護者の会とも連携しながらやっていきたいと思う。
委員	子ども家庭課との連携はどうなっているか。保育園から上がってくるので教育委員会との接点はあるのではないか。

事務局	子ども家庭課との取り組みは行っている。今も一年生訪問を一緒に回ったり、研修会も一緒にやろうと計画をしているところである。
教育長	そのあたりのことがこの中に入っていないのではということなので、気をつけて見ていく必要がある。
会長	学力向上の推進というところで、お気づきのことがあれば。
教育長	この6月議会でも学力の状況はどうなのかという質問があった。全国学力状況調査の今年度の結果はまだでていないが、昨年度のデータで見ると、小学校は、B問題応用問題で全国より下がっているということがあった。関係者からみれば、たいへんな問題である。今まで小学校は下がったことはなかった。中学校は両方とも上がっていた。しかし、よく分析してみると、今の中学校3年生の成績と小学校6年生のときの成績とを比べることができる。国語は、小学校の時に全国を100とすると106とかなりよかった。中学校になってくると103。一応全国よりいいわけだけれど、もともとあった力を落としてきているということがわかった。反対に数学の方は小学校の時は104くらいであったものが109まで上がった。特にB問題は全国と比べると15ポイントと良く伸ばしてくれた。数学の先生はがんばっているけれど国語の先生は・・・なぜかというところだが、40代の充実した年齢層が中学校数学教諭は多い。国語は少し端境期、少し若いところとベテランとの差がある。また、分析して小学校や中学校校長会で伝えていきたい。これに英語が入ってくれば、鳥取県は心配なところだ。
会長	数学は、中高連携が大きい。前から力を入れている。
教育長	ワークショップの力かなと思う。
委員	去年は悪かった、今年は良かったと、年度年度で一喜一憂せずにはむ倉吉市の教育指導の文化として、ぶれが大きくならないようにしなければ。あの年度は良かった、あの先生は良かった。先生が転勤したとかそういうことでは生徒は救われない。現状が高い低いはあるけれども、もともとある程度の集団だったら力は同じようにあっていいわけだから。
教育長	万全の体制を作らないといけない。
委員	大学に何人進学したとかそういうことでは無く、帰ってきて地場産業に貢献するとか、地域に貢献するような人材の育成という視点で見ていく必要がある。子どもたちも往々にして点数にとらわれている。良かった悪かった、できなかったではない人材の育成が必要だ。英語もどうしてするのかということから、納得してできるようになる。普段子どもたちを見ていると、文章が書けてすばらしく出来る子がいる、一方で文章がなかなか書けない、書けないから自分の思ったことが言えない子もいる。できれば、みんなが思ったことを表現でき、伝えられる学力を付けてほしいと思っている。
教育長	確かに一番そここのところが大切なところだと思う。
会長	パワーアップ事業は、どんなことをするのか。
事務局	英語については、西郷小学校と小鴨小学校にALTを配置している。来年度を見据えながら取り組みをしてもらっている。理科の方は理科の教科を中心に研究を進めているところ。そのために、1名配置し理科を中心に研究を進めているところである。
委員	⑨と⑩は、教育があつたりなかつたりしている。これは英語教育でいいのですか。英語パワーアップという子ども自身が英語の力がある、英語教育という教員が力があるような感じですが。
教育長	県の方がそういう名前を使っているんで、そのまま使わせてもらっている。 基本的には、先生の力をつけることは、子どもたちの力をつけることである。理科のパワーアップは、理科の専科、教科の専科ということで、小学校の先生がすべての教科を持つのではなく、理科の先生が専任の理科の教員という形で研究をしている。中学校ともタイアップしながら行っている。英語パワーアップについては、小学校代表の校長先生に説明をお願いする。
委員	県の事業を倉吉市が受けたという形の中で、西郷小と小鴨小が実際に動いてい

	<p>る。当初は、28年度から30年度までということ動いているのだが、国の方の動きの中で鳥取県としても、小学校のモデル的な学校を作りたいという流れの中で県内に5校配置してある。その中の2校が西郷小と小鴨小である。西郷小の方は、倉吉市は来年度4月から実施という方向をだされたので、本年度から教育課程外で今の状況の中で時間数をプラスしながら、こういう形でできるのではないかと思案しながらやっているところである。ALT が配置されていることはありがたいし、そういう中で、3年生まで学年を下ろしてやっている。徐々に事例として県内に発信できたらと思っている。</p>
会長	英語というのは、楽しい内容のものか。
教育長	5、6年生は教科になりますので。
事務局	楽しいというのは、歌やゲームを取り入れた授業で3、4年生に週1時間入ってくる。5、6年には2時間入ってくる。
会長	指導できる教員は足らないのか。
教育長	指導力を上げるために、今年度も悉皆研修でやっている。今年で3年連続だが、倉吉市独自で文部科学省の直山調査官をお呼びし、先生方の研修を行っている。それから、夏休みとか冬休みに市内に配置している小中学校のALT を使って、半日間、ALT とフランクに英語で話ができるような研修をしている。3年の間にみんなが研修を受けるようにして、パワーアップをしていく。効果があるかどうか心配だが、頑張らないといけない。
会長	会話が中心か。
教育長	はい。
会長	小学校の教員の免許の中には英語があるか。
教育長	ない。
会長	若い先生はそういうことができるようになってくるのか。
教育長	なってくると思う。大学の教育課程が変わってくると思う。それまでは今の研修で補っていくしかない。
会長	中学校の英語の教員を増やして、小学校に出校していくのはどうか。
教育長	それもありと思う。力のある先生に習うといいみたいだ。
事務局	先ほど内容を言われたが主に読むことと書くことが入ってくる。
会長	その他どうですか。
教育長	先ほどあった人権教育だが、昨年12月部落差別解消推進法を受けて、やはり教育啓発の部分、調査の部分、運動団体や人権局とも連携を取りながら今までやってきたことをもう一度洗い直し、足りないところ、特にインターネットを使った差別事象は厳しいものがあるので、内容を補てんしていかなければならない。
会長	道徳は教科になるのか。
事務局	特別な教科「道徳」となる。道徳に関しては、人との関わり、集団社会とのかかわり、或るいは自分自身に関する事、生命や自然も含めて行うことになる。
会長	評価もあるか。
事務局	文章表現で行う。
委員	ともすると人権教育と道徳教育と入り交じる。自分がどんな権利を持って生まれたか、自分が社会の中でどんな権利を持ちながら社会人として生きていくか考えさせる必要がある。高校で18歳で選挙権がある。主権者教育につながっていく。さまざまな差別の問題については先生方にもまだご理解いただけていない部分もある。もう一度押さえ直していただいで一緒に学んでいただきたい。
教育長	部落差別解消推進法のできた趣旨を押さえていく必要がある。
委員	特別支援学級が今二つに分かれている。自閉症スペクトラムなどいろいろな種類に分けられる。性格ではなくて、持って生まれた先天性なものによってコミュニケーションの取りづらい子が、自分の障がいのことを子どものうちにどのくらい把握したら良いのか。いざ社会に出たときに対人関係で外に出られなくなるこ

	とがある。昔より細分化されてきているように思う。小中学校でどのくらい把握されるのか。
事務局	学校では大きく分けて知的と自閉症・情緒の二つ。重なっている子どもたちもいるので、その子にとってどちらの教育を受けた方がより自分を発揮できるか考えている。まなびの教室とことばの教室が倉吉市に4つ設置してある。通級指導教室で学ぶことができる。
委員	自分で選ぶわけではないので、誰が選ぶのか。
事務局	保護者が学校の担任の先生に相談をしていただいて、関係者が集う教育相談を受けることになる。
委員	倉吉市は、生まれてから定期的に発達支援についての検査を検診の時にしている。5歳児検診が、発達障がいが発見という点において担う役割が一番大きい。それから就学に関わる支援会議を開催する。支援会議では、保護者が我が子をどういうふうに育てたいのかという意志を尊重する。保護者が我が子の可能性を伸ばし、自立に向けてどういった考えを持っておられるかで、養護学校か通常の学校の特別支援学級か選択がかわってくる。関係者が子どもさんの実態を把握する中で助言しても、保護者が拒否される場合もある。
会長	倉吉は障がいの種別でいくとどういった教室があるか。
事務局	病弱・身体虚弱学級、聴覚障がい学級、自閉症・情緒障がい学級、知的障がい学級、肢体不自由学級である。
教育長	先ほど言った通級指導教室は、通常学級に在籍しながらことばの指導を受ける。特別支援学校、小学校の特別支援学級、通常学級での通級など以前に比べると手厚くなってきている。
事務局	障がいがある対応については、個別に支援計画を作成し、保護者に相談しながら長期的、中期的、短期的目標を設定し取り組みを行っている。
委員	本人ももちろんなのだが、周りが理解するかしないかで不登校や社会にいつらくなることにつながってくる。周りの理解が進むようにしないといけない。
教育長	確かにそのことはある。鳥大の井上先生はそのあたりに詳しい。今年は河北中学校区と西中学校区を不登校対策の重点校にしている。小中は手厚いのだが、高校には特別支援学級はないので、中学校の先生は悩んでおられる。大学でも発達障がいの子がいるのだから、高校もそれに対応する必要がある。
委員	発達障がいがあるが必ずしも負のイメージでは無くて、IT業界でも細かな仕事ができたりするので、雇っている企業もある。必ずしも負のイメージでとらえるのではなくクラス全体でわかってもらうような取り組みがあってもいい。
教育長	課題として考えていく。
事務局	不登校の資料をつけている。今後この取り組みを充実させていきたい。新たに取り組んでいるのが、3日間子どもが休んだら、教頭先生等から連絡をいただき、ソーシャルワーカーや指導主事が聞き取る体制を組んでいる。また、今までは不登校の状況資料には、学校名を伏せていたが、学校名も出して不登校状況を市全体で見えていく形をとる。対応マニュアルの作成、電話対応についてもきちんと休む理由を明確化することが大切だと学校に伝えている。必要に応じて支援体制も組んでいく。重点校における不登校対策会議には、市教委、子ども家庭課、児童相談所、スクールカウンセラーも入り込み開催している。鳥大の井上先生にも重点校に入ってもらっていただき、不登校対策についての助言をいただくことになっている。不登校児童生徒の保護者の会は、本年度新たな取り組みとして、保護者の負担を軽減するため行う。
会長	重点校と重点校区があるが。
教育長	小学校では、重点校。中学校も合わせると重点校区となる。
会長	それは、不登校が多い学校からか。
教育長	そうである。どうしても人数が多いので、そうなる。

会長	これは、変わってくるのか。
教育長	変わってくる。
事務局	追跡調査をしている。28年度5月31日までに30日以上休んでいるのは、小学校4名、中学校は、14名でほとんど前年度から継続して欠席している児童生徒である。今年度は、小学校5名中学校は13名。小学校で1名増、中学校で1名減である。 新たな不登校児童を出さないとしていたが、中学校では4名増えている。早期対応を強調していきたい。
会長	原因はどうか。
事務局	原因は小学校では不安1名、複合的3名、その他1名。中学校では、無気力1名、複合的12名である。
委員	小学校からの引き続き不登校の生徒はいるか。
事務局	現在、資料を持ち合わせてない。今後、調査を行う。
会長	心因性、病気だけでなく怠学の児童生徒はいるのか。
教育長	怠学傾向の児童生徒もいる。教員のOBをスクールソーシャルワーカーとして配置しているので、親との接触・対応をお願いしている。児童相談所とも話をしながら、ケース会議を行っている。結局先生方の多忙感を感じる原因の1つに不登校児童生徒の対応があげられる。
会長	地域が何とかして応援してあげたい。
教育長	ありがたい。ケースによっては、保護者に入ってもらったり、民生委員さんに入ってもらっているところもある。学校もどこまで話を広げて良いか悩んでいる。ケースバイケースである。
会長	思ったより少ない
委員	一人一人の根が深い
会長	家庭教育のあたりでどうか。意見はないか。
委員	疑惑で終わったのだが、春休みに盗難があった。見た感じでは、小学生中学生の判断はつかないが、警察にも情報提供をしたが、もうすぐ夏休みになるので、注意喚起をしてもらいたい。
教育長	河北中校区では、パトロールをしていただいている。これが東中学校区、西中学校区でもできないかと模索している。そういったことも歯止めになる。地域学校委員会等でも取り組んでいきたい。昨年度、新聞にも報道されたが西中と鴨川中が被害に遭ったのは、その学校の出身者というわけではなく、ねらいやすいからガラスを破損している。始めは東中に行ったみたいだが、急にライトが付いて誰かに見つかる恐れがあると思ったので感知付きのライトのない、西中で犯行を行っている。久米中にも行ったが、カメラみたいなものがあるって犯行が分かってしまうと感じ鴨川中まで行っている。とりあえず中学校には、本年度防犯カメラを設置した。実は昨年の予算でしたかったが、地震の対応で難しかったので、当初予算で行った。小学校ではこのような事が起こる可能性が低いと思うので、中学校に設置した。警察からの要望もあった。
委員	児童センターで防犯教育をしている。警察署員に来てもらって子どもたちに話をさせていただく。小学校の低学年から万引きがある。遊びに来ている子どもに聞くと、罪悪感がないので万引きをやったことがあると言っている。Wi-Fiスポットを見つけてゲームをやったりしていて、それも盗むことになるという話をしていただいた。あまり罪悪感がないままに生活していることに危機感を感じる。中学生も警察なんて怖くないという感じだった。非行の問題も不登校の問題も学校だけではなく、家庭の中の様々な人間関係が子どもたちに影響している。保護者の生育歴まで追っていくと影響を受けているなど感じる。子どもたちがここで踏み止まっていることを良しとして何とか更生していく機会を与えていかないとけない。いじめの問題もやっぱり同じで、中身はそういうケースで起こって

	る。 また問題行動を起こす理由の1つに学習が分からないというのがある。学習が分からないと学校に行く気が起こらない。
事務局	学習が分からないという話がでていたが、本年度から地域未来塾という国の事業に取り組んでいる。貧困家庭の対策ではあるが、倉吉市では、中学生を対象に、はばたき人権文化センターで教員 OB の力を借りながら、学習支援を行っていく。7 月には、交流プラザ、公民館を活用しながら、同じような取組を行っていく。本日教育長とともに短大に協力依頼に行かせていただき、指導員としても大学生等にも声をかけさせていただくことになった。今後子どもたちの学習フォローを行っていきたい。
教育長	学生もなかなか忙しいようだ。補講など大変な状況だとお聞きした。市民の方でもよろしいので、紹介をいただければありがたい。若干の謝金は準備している。なんとか貧困の連鎖を食い止めたいというのが、国の願いでもあり私たちの願いでもある。河北中校区にも倉明園でやっていただいている。西中ははばたき人権文化センター、東中は校区で立ち上げている。 これがうまくいけば、鴨川中校区、久米中校区にも学習の場を提供できればという思いはある。何とか軌道にのせていきたい。
委員	募集の方法も考えていかないと。全体にしても支援したい子が出てこないでは効果が無い。
教育長	校長会でも話はするが、もう少しすると期末懇談会があるので、地域未来塾の取組があるけどどうかと声かけを行っている。
委員	大学生は難しい。児童センターも何回か大学にアプローチして事業をしたが、盆前まで学校に出ないといけない。試験があつて、補講があつて、夏休みが終わってしまう。鳥大は交通費 2, 0 0 0 円、島大も 3, 0 0 0 円ほしいといわれる。アルバイトも忙しい。鳥取市ならいいけど、倉吉市では難しい。
委員	先ほど予算の関係で付けられたのはカメラか。ダミーのカメラとカメラではどのくらい値段が違うか。ダミーだとわかってしまうと効果がないのだが。感知タイプの電気がつくものはどれくらいの値段か。人を感知し、点灯するだけで効果があると思う。非行に走る家庭環境でもおなかがいっぱいになったら、非行に走らないだろう。非行とは関係ないが、貧困家庭のために全国で子ども食堂ができています。倉吉にもあると思うが、現状を知らないのです。
委員	河北中校区、成徳地区、明倫地区、これからやりたいと思っておられる方もいる。中学校区にそれぞれあればいいのだが、お金を出す訳にはならないので難しい。県の方がネットワークを作って情報を発信している。
委員	倉吉市にもネットワークができた。関係者が集まってやっている。無償で私財を提供するとかクーラーも完備している。子どもとお父さんお母さんと一緒に来られ、経済的に困難とかでは無くて地域の集まる場になっている。かなり変わってきた。運営者にはもっとサポートする必要がある。
委員	児童センターでは、職員が作って食べさせるのではなくて、子ども達を作る。いろいろ食材等の提供は受けられるようになった。
委員	関金では、これから夏野菜が捨てるほどとれる。何とかならないか。
委員	少なくとも市社協を通じたらまんべんなく情報は伝わると思う。
委員	くらしの応援団を市社協が取り組んでおられるので、こういう食材を提供したいと申し出をすれば、応援団との調整をしてくれる。
会長	I ターンの方でリヤカーで野菜を売っている方もある。喜ばれると思う。
教育長	収穫もさせたらいい。
委員	取れたてのきゅうりを味わってもらいたい。農家さんもどこに相談・連絡をしたらいいのかわからないから、つなげてもらいたい。
教育長	再利用のことに言えれば、社協にセーラー服や学生服が準備できない家

	庭につながをやってもらっている。広がっていけば良い。
委員	LGBT の問題、ジェンダーの問題についてはやっぱり性的な悩みをかかえている子どもが増えてきている。その点にも配慮ができるようになれば。打ち明けられる体制作りが必要である。不登校の原因にもなる可能性もあるので。
委員	不登校の子どもを抱えている先生にも手厚いサポートをしてもらいたい。支援会議にも資料をたくさん出さなければいけない。資料の準備でさらに多忙になる。支援が支援でなくなる。日常的にサポートしてもらえる人を一人配置してもらって、日常的に話ができる体制をつくることで不登校がなくなっていけばいい。
会長	資料を作ったり、報告書を作ったりと忙しい。もっと子どもに寄り添ってもらわないといけない。
教育長	支援会議も短時間で行うもの。河北中が開発してくださったので、広げていきたい。開催時刻に集まって短時間で閉会する。
会長	保護者の会を持つとき、深刻になるのはわかるけれど、元気ができるようなものにしていきたい。
委員	倉吉市の不登校への具体的な対応については県も関わらせていただいている。
事務局	適正配置について該当地区で説明会を開催させていただいている。課題の明確化とその対応についてお願いしている。問題とされていることを挙げていただいて整理していきたい。各地区から 5 名程度集まらせていただいて、話し合いをしていただく。想定されるメンバーは、地域代表の方が 2 名、保護者の方が 2 名、学校代表の方が 1 名。各地区から 5 名出させていただいて、適正配置推進協議会を立ち上げたい。地区の自治公民館協議会長さんの方に委員の推薦依頼をさせていただく、教育委員会に報告として挙げていただく。自治公民館協議会の方にもお願いをしている。各地域でそれぞれ実情があるので、一齐に 9 月に立ち上げというわけにはいかないと思うが、ご理解をいただき、何とか適正配置推進協議会を立ち上げさせていただきたい。
教育長	6 月の議会でも議員から「適正配置推進協議会に参加したら、教育委員会に引っぱり張られて学校統合までいってしまうのではないか。だからそれには参加しないという地域がある。」と、教育委員会に答弁を求められた。課題を明らかにしながらやっていく。そこから準備会にしていくには地域の方に進めさせてもらってもいいか必ず聞く。関金小学校と山守小学校の学校統合の場合と同じようにきちんと手続きを踏みながら、やっていきたい。「ここはこういう課題があるのではないか。こっちの学校との組み合わせの方がいい。これはだめだ。」とか思いをしっかりと話し合っ、大変だけどボクシングをしなければいけないんじゃないかと説明した。今までのようににらみあって平行線のまま意見を言い合ってもらいがあかない。9 年間もこのままなので、どこかで解決を見いだしていかなければいけない。
会長	難しい問題だ。私も成徳地区だが、地域の人と言われるのは「適正配置推進協議会をつくって教育委員会に誘導されてしまうのではないか。」と。そこが必ずネックになる。
教育長	地域の皆さんがどうお考えになるか。
会長	地域の意見を尊重するかということ。
教育長	地域の意見を尊重してきたつもりである。費用的なこともあるので、今の現状をお話しさせていただく。ねじを互いに締めながら、どこで折り合いを付けていくか探らないといけない。そのための適正配置推進協議会である。
会長	そこがはっきりしないと適正配置推進協議会に出る人も大変。地域の方の意見もまとめないといけない。
委員	学校公開で明倫小、上小鴨小、小鴨小、社小を回って見て、明倫小でこの子どもたちは、今、しんどいだろうと思った。1 年生から同じクラスで上がってきて人間

	<p>関係を解決するのは難しいだろう。中学校でクラス分けをきちんとしてやらなければいけないだろうと感じた。上小鴨小では、もっと少人数なので心が和み、落ち着いて学校生活も送ることができ、先生が目も行き届くだろう。一緒になるとどうだろう。小鴨小に行ったら、大変だろうと感じた。先生が 30 数人を受け持つことが大変になってきていると感じた。何が子どもにとっていいのかを最優先し、どういう学校にしていくのが良いのか、大人が子ども第 1 で一生懸命に考えていかないといけない。適正配置推進計画では学校と地域をともに考えるのではなく、子どもの育ちにとってなにがいいのか。もし、統合する場合、そうでない場合でも子どもたちにとって最適な環境をしっかりと話し合ってもらいたい。適正配置推進協議会の人も、そういう思いでやっていただきたい。</p>
会長	<p>第 1 は、子どものため。そう分かっているけれど現実にはそうはいかない。原点は見失ったらいけない。難関だが、そこを忘れないでほしい。</p>
事務局	<p>その他のことで、鳥取県中部を震源とする地震による被害報告をさせていただく。学校施設或いは公民館体育施設等をのせている。公民館については、7 月末完了予定。体育館施設は 9 月末を予定している。学校の体育館については業者の方の人手不足ということで担当が苦慮している。学校給食センター被害とその対応については、経緯の中にも記載しているが、4 町、短大、業者支援のご協力をいただき、子どもたちの給食を確保し、4 月 11 日給食を再開させていただいた。本年度、昨年度の経験を教訓にして防災教育の充実を図る必要がある。国の事業を受けマニュアル作成もしており、倉吉全体で取り組んでいくことをまとめしていく。</p>
会長	<p>これで協議は終わりとする。</p>
4 閉会	